

秋田の土地改良



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

みどり
水土里ネット秋田

目次

第50回水土里ネット秋田通常総会	2
第49回全国土地改良功労者表彰(第50回全土連総会)	7
秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会	7
平成19年度農用地等集団化優良地区等表彰式	8
「農村災害支援アンケート」集計結果	9
平成20年度秋田県人事異動(農林水産部関係)	10
平成20年度県農林水産部関係新任挨拶	10
平成20年度土地改良関係課事務分掌(秋田県)	12
平成20年度人事異動・機構図(水土里ネット秋田)	14
雄物・米代川地域基盤確立推進協議会・連合会日誌	16
合併予備調印式・会員だより	17
インフォメーション	18

◆発行所/秋田県土地改良事業団体連合会 〒010-0967 秋田市高陽幸町3番37号
TEL .018-888-2750(代) FAX .018-888-2834 <http://homepage2.nifty.com/akidoren/>



「がんばってね。」美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品

第50回

本会通常総会

設立50周年を契機に、多角な事業運営の展開と機能強化を図る！

■全国土地改良大会秋田大会の成功に向けた体制づくり

3月18日、本会第50回通常総会が県社会福祉会館(秋田市)において会員131名(内委任状47名)が出席、来賓として寺田典城県知事、宮元均東北農政局次長、大野忠右エ門県議会議長、藤田了次県農林水産部長、国会議員秘書の方々ほか関係者多数が臨席のもとに開催された。

総会では高畑会長の挨拶(別掲)のあと、功績者表彰として優良7団体及び個人21名の表彰が行われ、続いて来賓の方々が祝辞を述べられた。

この中で、寺田知事は「日本はもっと農業を大事にしないとイケない。食料自給率、米価の下落など問題を抱えているが、どうしたら農業に夢を持てるかが一番の課題である。県でも品目横断的安定対策や集落営農など積極的に進めているが時代に即した競争できるシステム作りが重要と考えている。皆さんにも農業に前向きに、夢を持って取り組んでいただきながら、一層のご協力をお願いしたい」と述べられた。

また、宮元局次長は宮坂東北農政局長の祝辞を代読し「秋田県は農地・水・環境保全活動において全国第3位の63,000haで取組んでいる。これは秋田県の土地改良関係者の美しい農村を未来に引き継ごうとする強い熱意の表れである。現下の課題は米価の下落であるが、土地改良区の賦課金徴収にも影響を与えている。安定した土地改良区運営は、我が国の食料供給力と健全な農村維持のために重要であり、今後も農業農村の発展に積極的に貢献する組織として活躍されることを期待します」と述べられた。

祝電披露の後、議長に大館市土地改良区理事長小笠原利雄氏を選出し議事に入った。

平成18年度事業報告及び一般会計収支決算、



平成19年度一般会計収支補正予算(理事会専決処分)、平成20年度事業計画及び一般会計収支予算、定款及び規約の一部改正などが提出され、審議の結果、すべての案件が承認された。また、役員を選任も議決され、理事16名、監事3名が選任された。

最後に、三浦専務理事により決議文(別掲)の朗読があり、満場の承認を得て採択され、総会は終了した。

■功績者表彰は7団体21個人が受賞

なお、今回表彰された土地改良功績者表彰(優良団体、個人)の受賞者は次のとおり。

【団体表彰】◇金章＝男鹿東部土地改良区◇銀章＝合川町土地改良区、山本郡三種町下岩川土地改良区、河辺土地改良区◇銅章＝南秋田郡五城目土地改良区、男鹿市若美土地改良区、秋田市上北手猿田土地改良区

【個人表彰】亀田三次郎、石田政一、水戸嘉七、堀内順悦、石田誠孝、米川新、能登正実、戸嶋幸三、遠藤由美子、佐野秀明、栗田哲栄、竹内幸男、佐藤清太郎、高橋慶市、佐藤浩康、星宮文雄、藤岡義博、黒澤正巳、佐々木重美、照井嘉内、近田榮一



会長挨拶

水土里ネット秋田会長 高畑 進

本日は、年度末で大変ご多用の中、会員皆様のご参会を頂き、誠にありがとうございます。

特にご来賓として、定例県議会の最中、寺田知事様並びに大野議長様、また遠路東北農政局の宮本次長様をはじめ、後ほどご紹介申し上げます多くの方々が、それぞれご繁忙の中ご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

皆様には、日頃農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営に、特段のご指導・ご支援を頂き厚くお礼申し上げます。

本会は、昭和33年に市町村や土地改良区等の協同組織として設立以来、土地改良事業の推進を通して、農業農村の発展に尽くして参りましたが、今年、創立50周年の節目を迎えることとなりました。

これもひとえに、国・県など関係機関のご理解・ご支援と会員皆様のご理解・ご協力の賜と心から感謝申し上げますとともに、半世紀にわたって培ってきた技術力、経験をもとに、役職員心新たに、引き続き会員皆様のニーズに沿った業務運営に全力を挙げて努力してまいり所存であります。

この後引き続き表彰が行われますが、受賞される改良区、役職員の方々はいずれも土地改良



事業の推進に尽くされ、地域の発展に功績を上げた方々であり、あらためて心から敬意を表しますと共に、引き続きご活躍されることを期待申し上げます。

次に、本会を取り巻く情勢について2、3報告申し上げます。

まず、本会事業の骨格をなす受託事業については、新規事業の減少や国・県の契約方式の見直しなどから今後更に減少方向を辿る見通しとなっており、従前に増して厳しい財政運営となるものと思っております。

このような中、会員皆様の付託に十分応えるために、今後新たな分野への進出も視野に入れながら、さらなる技術力の向上と意識改革を図り、効率的な運営を心がけていきたいと考えております。

この点、日常の業務執行段階での顧客から頂いている信頼感のほか、とくに昨今における各地での災害復旧支援活動で頂いている高い評価、そして今年もまた職員一人が技術士の資格を取



第31回 全国土地改良大会 秋田大会

■日時 平成20年10月14日(火)

■場所 秋田県立武道館

事業視察 平成20年10月15日(水)～16日(木)

多数の参加をお待ちしております!!

あと 172日(4月25日現在)

【問い合わせ先】

総務企画部全国大会開催PJ 畠山・阿部・齊藤・尾張谷
TEL.018-888-2713 FAX.018-888-2834



得するなど、今後に向けた下地は十分整えつつあるものと存じております。



次に、新年度の事業計画については、後ほど議案として詳細説明申し上げますが、**最大の行事は10月の全国土地改良大会の開催**であり、目下その成功に向けて万般に亘る準備を進めているところございます。大会の開催に当たって、県並びに市町村ご当局から物心両面に亘る特段のご支援を頂けることになっており、ここに改めて厚くお礼申し上げます。

この大会は、今年の県内行事としては6月の全国植樹祭に次ぐ大きな行事となっております。県外から2千人、県内から1千人が参加する予定で、このため大会式典や歓迎アトラクションなど随所に秋田らしさを演出することといたしているほか、事業視察は県内5コースを設定し、各地の観光資源や特産物紹介にも力を入れるなど、経済効果の面でも多少なりともお役にたてればと存じております。

引き続き、県の関係部署、農政局の地方機関、市町村並びに水土里ネット関係皆様の特段のご協力をお願い申し上げます。

次に、「**農地・水・環境保全向上対策**」について申し上げたいと存じます。

土地連はこの対策協議会の事務局を担当しておりますが、本県での本年度の取り組みは、活動組織数が709団体、面積が約6万3千ヘクタールと、**全国トップクラスの実施状況**となっております。

このことは、県ご当局が、いち早くこの活動を県民運動として位置づけ、市町村ともども、厳しい財政事情下にあつて、要望事業量の全てについて予算措置をして下さったほか、適切な指導をして頂いた賜であり、心から感謝申し上げますし、土地改良区もこの事業に積極的関わっていく中で、これまでにない新しい地

域活動として、関係住民皆様から好評を頂いているところであります。

本年度は初年度ということで、参加者の呼びかけや事務取扱いなど不慣れな面もあったかと存じますが、国におかれても、事務の簡素化については大幅に改善されていますので、間もなく始まる来年度の活動に向け、市町村や水土里ネットの担当者皆様には引き続きよろしくご指導、ご協力をお願いいたします。

ご高承のとおり、我が国の食料自給率はついに40%を切る状況となり、また米の過剰基調に基づく米価の大幅な下落や、中山間地域における集落崩壊の危機の顕在化、更に都市と地方の格差の拡大など、地域の農業や集落が大きく変貌する中で、先人達が営々と築き育んできた水・土・里を適切に保全管理し、これを次の世代に引き継いでいくことは、**水土里ネットに課せられた大きな使命**ではありますが、この「農地・水・環境保全向上対策」と「21創造運動」は、正にこの一翼を担う、なくてはならない事業であると考えますので、皆様と共に一層の取り組みを期して参りたいと存じます。

次に、国の平成20年度農業農村整備関係予算では、「**農政改革を推進するための基盤づくりの新たな展開**」をはじめとする**3本の柱**のもと、更に11項目に亘る重点事項を配列した予算が編成されており、公共事業予算の削減基調の中、農政改革推進の基盤を整備するため、前年度比99%の予算が確保されております。

特に農地政策の改革推進のため、「**農地に関する諸々の情報を地図上に一元化して整備する水土里情報利活用促進事業**」について、本年度の約4倍の予算が計上されており、来年度は加速的に整備されるものと期待しております。

また、県の20年度予算につきましては、明日19日に議会議決が行われる予定と伺っておりますが、地方交付税の歳入減等から、予算の実質規模が5.1%減となる中で、自立と発展に向け、産業の振興と教育・人づくり、環境整備などの重点施策を積極的に推進する予算内容となっております。

その中で、公共事業については本年度並の額を確保され、ほ場整備事業に96億円、農地・水・環境保全対策に6億8千万円が計上されるなど、**基盤整備と農村の環境対策に重点を置いた予算編成**となっております。農業農村の振興に特段のご高配を頂いております。

本日の審議事項は、決算、予算の関連と定款・規約の改正並びに役員選任案件でございます。

定款改正の内容は、役員定数の改正で、理事の定数減をおはかりするものであります。

その理由につきましては、詳細は議案説明の祭申し上げますが、要約して申し上げますと、合併による会員数の減少と、会の財政運営面からの判断であります。

なお、会の定款変更は農水大臣の認可を必要とすることから、本総会で議決後速やかに認可申請を行い、できるだけ早い時期に新たな定数に移行したいと考えております。このため今回選任される役員任期は一年とする特例を設け、来年の51回総会で新たな定員による選任を行うこととするものでありますので、会員皆様のご理解をお願い申し上げます。

各議案についてよろしくご審議の上ご可決賜りますようお願い申し上げます。

ご来賓の皆様には引き続き特段のご指導ご支援を賜りますよう、またご参列皆様のご健勝・ご発展を祈念申し上げ、開会のご挨拶といたします。



決 議



秋田県土地改良事業団体連合会は、戦前・戦後の秋田県耕地協会、土地改良協会をその前身とし、昭和32年の土地改良法の改正に伴い翌33年に設立以来、本年11月を以て50周年の節目を迎えようとしている。

この間、戦後の食糧増産の国の政策に沿い、耕地整理、土地改良事業の施行に重要な役割を果たす市町村、土地改良区などの技術及び組織運営にわたる指導体制を築きながら、その共同の利益の増進を図り、食糧基地としての秋田県農業の発展のために尽力し、またその後も、日本農業の構造改革を図ろうとする諸施策に合わせ、土地改良のみならず農業農村の近代化を図る礎を築いてきた。

しかし近年は、世界各地では、温暖化をはじめとする、異常気象や大規模な災害発生など地球規模での環境の異変が危惧される一方、我が国では都市と地方の格差が拡大し、特に農村社会にあっては高齢化、過疎化に加え、米価下落に伴う農家経済の危機的状況も顕著となり、「いのち・循環・共生」の視点に立った農業と農村地域を持続していくことが困難な状況となってきた。

このような状況の中で、将来にわたって国民に安全・安心な食料を安定的に供給していくためには、社会経済の基礎を支えてきた農業の体質強化を図り、活力ある農村社会を構築していくことが喫緊の課題である。

幸い本年度から実施された「農地・水・環境保全向上対策」は、秋田県が全国最高水準の実施率を誇る中で、我々水土里ネット関係者が、これまで培ってきた技術や経験を生かし、地域振興に貢献しながら、これらの地域資源を次世代に引き継ぐための成果を引き出せる絶好の機会となっている。

加えて、本年10月14日には第31回全国土地改良大会を初めて秋田県で開催するこの重要な時期に当たり、我々水土里ネットの果たす社会的役割を自覚し、今後とも農政改革の推進に積極的に貢献していく覚悟である。

このため農業農村整備関係者は一致団結して、下記事項が実現されるよう本総会の名において決議する。

記

- 一、農業農村の発展と活性化が我が国発展の礎となることを再認識し、農業農村整備を我が国の重要な施策として位置づけ着実な推進が図られること。
- 一、大規模かつ優良な農業地帯の農業生産を支える基幹的な農業水利施設については、今後も国が責任をもって整備すべきであること。
- 一、水土里ネットと地域の連携をこれまで以上に強化し、「農地・水・環境保全向上対策」に主体的に取り組み、国民共通の財産である「農地」、「水」、の保全管理と農村環境の向上に一層貢献していくこと。
- 一、新たな時代の要請に対応できる水土里ネット組織の運営基盤の強化を図ると共に、健全な組織運営に努めること。
- 一、第31回全国土地改良大会秋田大会を成功させると共に、設立50周年を契機とし、連合会の多角な事業運営の展開と機能強化を図ること。

平成20年3月18日

秋田県土地改良事業団体連合会 第50回通常総会

秋田県土地改良事業団体連合会役員名簿

平成20年4月1日

役職名	氏名	所属団体名	備考	役職名	氏名	所属団体名	備考
会長	高畑 進	湯沢市岩崎弁天土地改良区理事長		理事	佐々木 紘一	内越土地改良区理事長	
副会長	小林 富義	能代市東土地改良区理事長		理事	山田 明	にかほ市土地改良区理事長	
副会長	高橋 規男	秋田県仙北平野土地改良区理事長		理事	高貝 久遠	秋田県田沢疏水土地改良区理事長	
副会長	古谷 英雄	秋田市豊岩中央土地改良区理事長		理事	藤井 弘道	秋田県南旭川水系土地改良区理事長	新任
専務理事	三浦 貞一	学識経験者		理事	柴田康二郎	秋田県雄物川筋土地改良区理事長	新任
理事	安保 富雄	かづの土地改良区理事長		理事	由利 傳	湯沢市中央土地改良区理事長	新任
理事	三澤 敏行	北秋田市綴子土地改良区理事長		総括監事	工藤久兵衛	井川町土地改良区理事長	
理事	戸田 達雄	大館市南土地改良区理事長	新任	監事	加藤 久孝	大仙市協和土地改良区理事長	
理事	安井 操	山本郡市川堰土地改良区理事長		監事	畠山 清俊	比内町土地改良区理事長	新任
理事	鈴木 順平	八郎潟西部干拓地区土地改良区理事長					

第49回

全国土地改良功労者表彰式

全国水土里ネット第50回通常総会

■本県から4団体、2個人が受賞

3月27日、シェーンバッハ砂防(東京都)で、第49回全国土地改良功労者表彰式、農業農村整備コンクール優良地区表彰式が開催された。

全国土地改良功労者表彰は、永年にわたり土地改良事業に尽力し功績が認められた土地改良関係者(優良団体、個人)が表彰されるもので、表彰式は毎年全国水土里ネットの総会に併せて行われている。今回は、農林水産大臣表彰優良土地改良区が5団体、優良土地改良区表彰として金章42地区、銀章47地区、銅章43地区、個人(役員及び職員)100名が表彰された。なお、本県からは金章の由利本荘市子吉土地改良区をはじめ2団体、2個人が栄えある賞を受けた。

なお、本県関係で受賞された方々は、次のとおり。

○優良土地改良区

(金章) 由利本荘市子吉土地改良区

(銀章) 秋田県仙北南部土地改良区

(銅章) 該当なし

○個人表彰

佐藤 弘志(鳥海町笹子土地改良区理事長)

須田 久(にかほ市土地改良区事務局長)

■全国水土里ネット通常総会が開催される

表彰式に先立ちルポール麴町(東京都)で、都

道府県水土里ネットの関係者が出席して全国水土里ネット第50回通常総会が開催された。

総会は、提出議案の平成18年度事業追加報告及び収入支出決算、平成19年度事業中間報告及び収入支出補正予算、平成20年度事業計画及び収入支出予算などの審議が行われた。

また、役員の新選任が行われ、新たに理事4名、監事2名が選任された他、「安全・安心な食料の安定供給や多面的機能の発揮の基礎となる農地や農業用水の整備・保全並びに農村の振興に必要な施策として、国と地方の適切な役割分担のもと、農業農村整備を着実に推進していくこと」など6事項からなる決議を採択して終了した。

なお、全国水土里ネットの主な役員は次のとおり。

会 長 野中広務(京都府土地改良事業団体連合会会長)

副会長 吹田 幌(山口県土地改良事業団体連合会会長)

” 館澤宏邦(岩手県土地改良事業団体連合会会長)

” 段本幸男(前参議員議員)

専務理事 佐藤 準(学識経験者)

常務理事 新井安廣(学識経験者)

秋田県 農地・水・環境保全
向上対策地域協議会

■平成19年度第3回検討委員会を開催

3月27日、秋田市(ルポールみずほ)で「第3回秋田県農地・水・環境保全向上対策に関する検討委員会」が、6名の検討委員や事務局などが出席して開催された。

検討委員会は、同対策に関わる交付金の交付



状況の点検、活動組織の取り組みに対する評価及び指導・助言、地域協議会に対する助言など

を行うために昨年9月に設置された。

委員会は、黒子県農林水産部次長のあいさつ
の後、長濱委員長が議長を務められ、平成19年
度の実施状況及び平成20年度の取組予定など
について議事が進められた。平成19年度の実施状
況では、地域協議会の交付金の交付状況、活動
組織の取組状況(共同活動支援・営農活動支援)、
一年間の活動を通じた課題などについて事務局
からの報告があり、引き続き活動組織の取り組
みなどについて意見が交わされた。

各委員からは、「まだ、一般の人に対してPR
不足である。もっと都市部の人に活動を知らせ
る工夫が必要」、「活動が継続的に出来るよう
な体制づくり考える必要がある」、「地域協議会
のホームページ活用は有効であるが対象が限ら
れる。他のメディア、広報手段も検討したらどう
か」などの指導・助言をいただいた。

なお、検討委員会のメンバーは次のとおり。

◇委員長：長濱健一郎(秋田県立大学生物資源科
学部アグリビジネス学科教授)◇副委員長：児玉
徹(全国農業協同組合連合会秋田県本部参与)◇
阿部幸悦(由利本荘市社会福祉協議会理事副会長)
◇田村陽子(ホリプロスポーツ文化事業部アナウ
ンサー)◇柏田一雄(一般公募委員)◇田仲和子(一
般公募委員)



平成19年度 農用地等集団化関係優良地区

功労者表彰受賞される

3月17日(月)、仙台市「KKRホテル仙台」にお
いて、平成19年度農用地等集団化優良地区等表
彰式が行われた。

表彰式では平成19年度の農林水産大臣表彰地
区として、全国8地区のうち、岩手県：奥玉地
区、福島県：八丁目地区が受賞され、東北農政
局長表彰として秋田県からは、大仙市(旧神岡町)
の「神岡下川原地区」が受賞された。当地区は、
大仙市及び地元神宮寺生産組合が中心となり、
将来の集落営農及び法人化を見据え、換地計画
では集落別集団化を推進し、併せて田以外の畑・
原野等の地目別集団化を図り、優良農地を確保
し、89.5%に達する高い集団化率を達成すると
ともに、農作業の受委託を中心とした生産組合
への利用集積を推進したことの貢献により、東
北農政局長表彰となった。

また、引き続き全国農地集団化協議会及び東
北農業農村整備推進協議会関係の表彰が行われ、

秋田県からの優良地区及び功労者表彰は次の地
区及び功労者が受賞された。

◆東北農業農村整備推進協議会長賞 (農地集団化部会長賞)

・優良地区表彰

「金岡地区」(秋田県能代地区土地改良区)

「白岩第一地区」(仙北市)

「金西東部地区」(秋田県南旭川水系土地改良区)

「金沢地区」(秋田県南旭川水系土地改良区)

「福地地区」(おものがわ土地改良区)

・功労者表彰

「高橋 良一」(十文字町土地改良区)

「齊藤 保雄」(羽後町土地改良区)



▲優良地区表彰「金岡地区」の受賞者

農村災害支援④

— 秋田県農村災害支援協議会 —

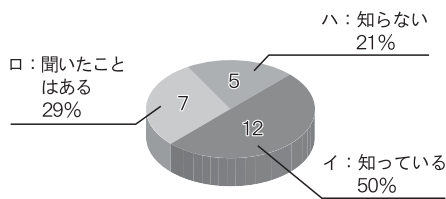
「農村災害支援アンケート」の集計結果について

秋田県農村災害支援協議会は、農地・農業用施設の大規模災害時に備え、現地状況の迅速な把握や応急対策などに「農村災害復旧専門技術者」の活用、派遣に向けた取組みを行っております。

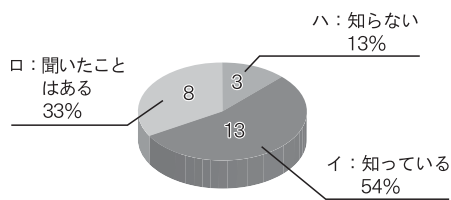
平成19年度は、農村災害復旧専門技術者の育成・強化を図ることを目的に、「災害復旧技術向上のための講習」等を開催しており、平成20年2月には市町村を対象に理解度・活用等について「農村災害支援アンケート」を実施しました。今回は、その集計結果を紹介いたします。

「農村災害支援アンケート」の集計

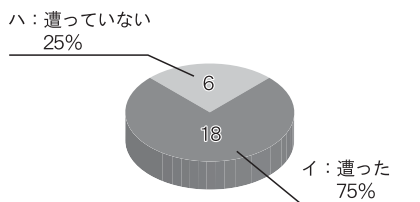
Q1: 「秋田県農村災害支援協議会」を知っていますか



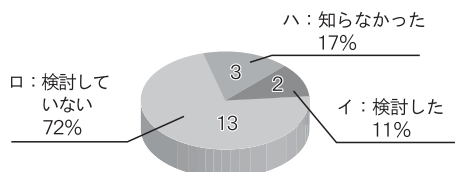
Q2: 「農村災害復旧専門技術者」を知っていますか



Q3: あなたの市町村では、昨年の8月、9月の豪雨災害に遭いましたか



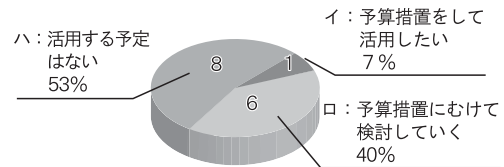
Q4: Q3の回答で、イの「遭った」市町村では「農村災害復旧専門技術者」の活用を検討されましたか



Q5: Q4の回答で、ロの「検討していない」の市町村は簡潔に理由を記述して下さい

1. 当制度とは別に土地連と査定業務に係る委託契約をしたため
2. 被災箇所数が少なかったため
3. 町で対応できる範囲であった
4. 内部職員で対応が可能と判断した
5. 職員で対応可能だったから
6. 町職員で対応できる為
7. 内部職員で対応が可能と判断した
8. 市担当での対応で適と考えた
9. 規模・工種・箇所数などから課職員で対応可能と判断した
10. 諸々の事情により記述できない
11. 内部職員で対応可と判断

Q6: 今後、「農村災害復旧専門技術者」の活用についてどのように考えますか



Q7: 災害が発生した場合の対応等で困っていることなどをお聞かせ下さい

1. 大規模災害時の現地確認、査定、実施設計等が大変である
2. 災害経験者がいないため被害状況報告書の作成等全てにおいて自信がない
3. 大災害において当町は自己負担があり自己申告なので現場の把握等が困難
4. 対応が無いので判らない
5. 緊急対応の場合に係る予算の問題（重機借上費や原材料費などがまったくない）
6. 個人負担が伴い急を要すること、市単独復旧費とのバランス等で悩みが多い

秋田県内 全市町村 (25) に依頼
H20年2月28日 集計

以上の結果から、理解度が低いため、制度やしきみなど具体的な活動内容について啓発してまいります。

平成20年度県関係機関の紹介

秋田県は4月1日付けで、平成20年度定期人事異動を発表しました。農林水産部及び各地域振興局の関係機関の主な担当者は次の通りになりましたのでお知らせいたします。

【秋田県農林水産部】

部長・次長・参事・課長等の紹介

部長	佐藤 文隆
森林技監(兼)次長	河野 晃
次長	高橋 清悦
次長	菅原 仁司
次長	川原 幸徳
参事	近藤 誠二
参事(兼)農林政策課長	大石 勤
農林政策課政策監	照井 義宣
全国植樹祭推進室長	宮崎 一彦
農地整備課長	村上 克朗
農地整備課事業調整監	佐々木次郎
農山村振興課長	長谷部 勝
水と緑推進課長	堀江 敏広
参事(兼)秋田の食販売推進課長	星川 泰輝
団体指導室長	工藤 孝夫
参事(兼)水田総合利用課長	保坂 進
農畜産振興課長	伊藤 淳
水産漁港課長	遠藤 実
秋田スギ振興課長	大野 芳雄
森林整備課長	沓沢 了介

【県地域振興局】

各地域振興局長及び農林部長名等は次のとおり。

[鹿角地域振興局]	◇局長：佐々木 誠	◇農林部長：柳原 守
[北秋田地域振興局]	◇局長：藤田 了次	◇農林部長：藤原 正
[山本地域振興局]	◇局長：佐々木卓郎	◇農林部長：金澤 千昭
[秋田地域振興局]	◇局長：加賀谷誠一	◇農林部長：渡会 信紀
[由利地域振興局]	◇局長：藤原由美子	◇農林部長：本郷 礼三
[仙北地域振興局]	◇局長：渡辺 文隆	◇農林部長：工藤 正義
[平鹿地域振興局]	◇局長：黒子 高夫	◇農林部長：鈴木 誠
[雄勝地域振興局]	◇局長：藤井 良輝	◇農林部長：堀田 勝一

【その他関係部署】

生活環境文化部	参事(兼)環境あきた創造課長	川村 文洋
建設交通部	八郎湖環境対策室長	菅原 徳蔵
出納局	参事(兼)下水道課長	佐々木洋文
参事	技術管理室技術管理監	田口 保孝
検査課技術管理監		堀江 憲行
		清野 弘久



新任のごあいさつ

秋田県農林水産部長

佐藤 文隆

会員の皆様には日ごろから県農政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

農林水産業と農山漁村は、新鮮で安全な食料を安定的に供給することはもとより、県土や自然環境の保全、水源涵養、良好な景観形成などの多面的機能の発揮を通じて、県民の豊かな生活の実現に大きな役割を担っており、今後とも、その可能性を最大限に引き出しつつ、農林水産業の振興や地域の活性化を図っていくことが重要と考えております。

また、昨今の国際的な穀物価格の高騰や安全・安心な食料に対する国民的関心の高まりなど食料を巡る環境が変化しつつある中、低下基調にある食料自給率の向上に向けた取組は国産農産物の生産拡大を促すものとなることから、主要な農業県である本県にとっても、将来にわたる農業の持続的な発展を見据えた施策展開が求められております。

このため、本県農業の体質を強化し、持続的な発展を遂げていくため、認定農業者や集落営農など担い手を中心とした生産構造への転換を加速的に図り、地域農業を支える意欲の高い担い手による農業経営の複合化、多角化を強力に推進することが必要であると考えております。

昨年度から品目横断的経営安定対策がスタートしたところですが、本県の加入状況は全国的に見ても極めて高い水準にあります。

今後、集落営農組織にあつてはその法人化を進め、自立的な発展を促進するとともに、米以外の作目へのシフトや加工・販売等の新分野へのチャレンジなどの取組を支援し、低米価時代にあつても生き残れる優れた経営感覚を持った経営体を育成してまいります。

一方、農業農村整備事業にあつては、ほ場整備事業等を契機として、地域のリーダーとなる担い手が相当教育成され、地域の特徴を生かし地域ブランドの確立や、マーケティングによる産地化を目指すなど、新たな飛躍に向けて積極果敢に取り組んでいこうとする芽が出始めており、県としても積極的にサポートしていきたいと思っております。

終わりに、皆様のますますの御健勝と秋田県土地改良事業団体連合会のますますの御隆盛を祈念申し上げ、新任の挨拶といたします。



新任のごあいさつ

秋田県農林水産部次長

川原 幸徳

会員の皆様には、日ごろから農林水産行政、とりわけ農業農村整備事業の推進につきましては格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、県では事務事業の効率的な執行のため様々な行政改革を実行しており、農業農村整備事業関連におきましても、様々な課題に包括的・総合的に対応できるよう組織再編を行っており、この場をお借りしてその一端を御紹介いたします。

農山村振興課においては、「中山間地域等直接支払制度」及び「農地・水・環境保全向上対策」をより積極的に活用するため、両事業を担当する「地域環境保全班」を再編し、より一層の市町村・土地改良区・集落の多様な主体との連携による集落機能の維持・活性化に努めるとともに、持続可能な地域社会の仕組みづくりを支援することとしております。

農地整備課においては、耐用年数を迎える水利施設が更新時期を迎え、維持管理費の抑制とこれら施設の長期

的な負担の軽減を図ることが必要となってきています。このため、農業水利施設を造る側と維持管理する側の連携をより濃密にすることをねらいとして、かんがい排水・ため池・地すべり対策事業と、ストックマネジメント事業を統合した「水利整備・防災班」を再編しました。また、各地域振興局農村整備課においては、各地域の土地改良事業計画策定・実施及び各種支援事業を迅速かつ円滑に推進していくため、前述のソフト・ハード事業等の両面を担当する「ふる里づくり推進班」を再編しております。

昨今、県内の農村地域では、少子・高齢化の進展が著しく、集落機能の脆弱化が懸念されている中、地形条件や地域の特徴を生かした固有資源の活用や地域の自立的発展を図るための新たな活性化策が求められております。

農業農村整備事業においても、生産性の向上を図るだけでなく、加工から産直・直売所等の販売、さらには、都市農村交流など事業効果に付加した取組による起業・就業機会の拡大など、新たな地域政策として、幅広い観点を意識した取組を推進していきたいと思っております。

終わりになりますが、今後とも水土里ネットの皆様と十分に連携をしながら、活力ある農村社会の形成に取り組んでまいりますので、より一層のご協力をお願いするとともに、秋田県土地改良事業団体連合会のますますの御隆盛を祈念申し上げ、新任の挨拶といたします。



着任にあたって

秋田県農林水産部農地整備課長

村上 克朗

会員の皆様におかれましては、日ごろから農業農村整備事業の推進に御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。着任にあたり、農業農村整備事業の展開にかかる重点事項について申し上げます。

水田農業を基幹とする本県農業を足腰の強いものにするためには、認定農業者や集落営農など担い手を中心とした生産構造への転換を加速することが求められており、ほ場整備をはじめとする農業基盤整備事業を着実に推進する必要があります。

このため、今後の新規採択においては、地域における営農状況に応じ、他の農業施策と積極的な連携を図り、米偏重から収益性の高い作物の導入や拡大による複合経営を目指す意欲の高い地区を精選し重点整備していくこととしております。

次に、農業水利施設についてですが、農業水利施設は、用水の確保のみならず、生活・防火・地下水の涵養、貴重な動植物の棲息場所など、多様な機能を持つ重要な地

域資源であります。しかしながら、多くの施設が今後、耐用年数を迎えることから、水利施設の機能診断体制を強化し、施設の実態把握に努め、施設保全対策による長寿命化や施設の更新計画を策定し、長期的な負担軽減策を講じていくこととしております。

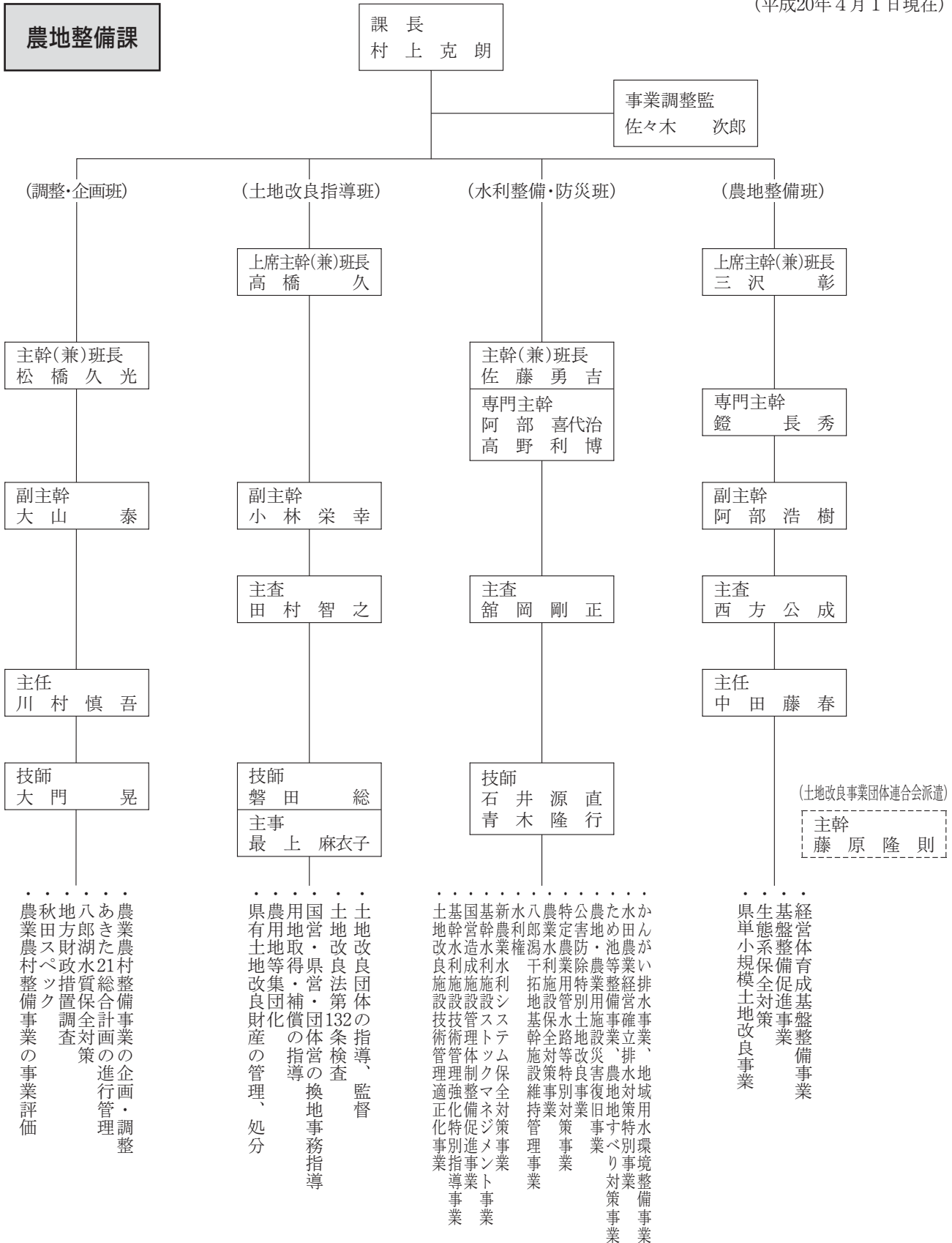
特に、県内耕地面積の約4割に及ぶ主要水源となっております農業用ため池は、その多くは老朽化が進み、近年、想定外の局地的豪雨による被災も見受けられるようになっていくことから、施設の計画的整備のみならず豪雨や地震時の対応など、防災・減災に向けた取組を推進します。

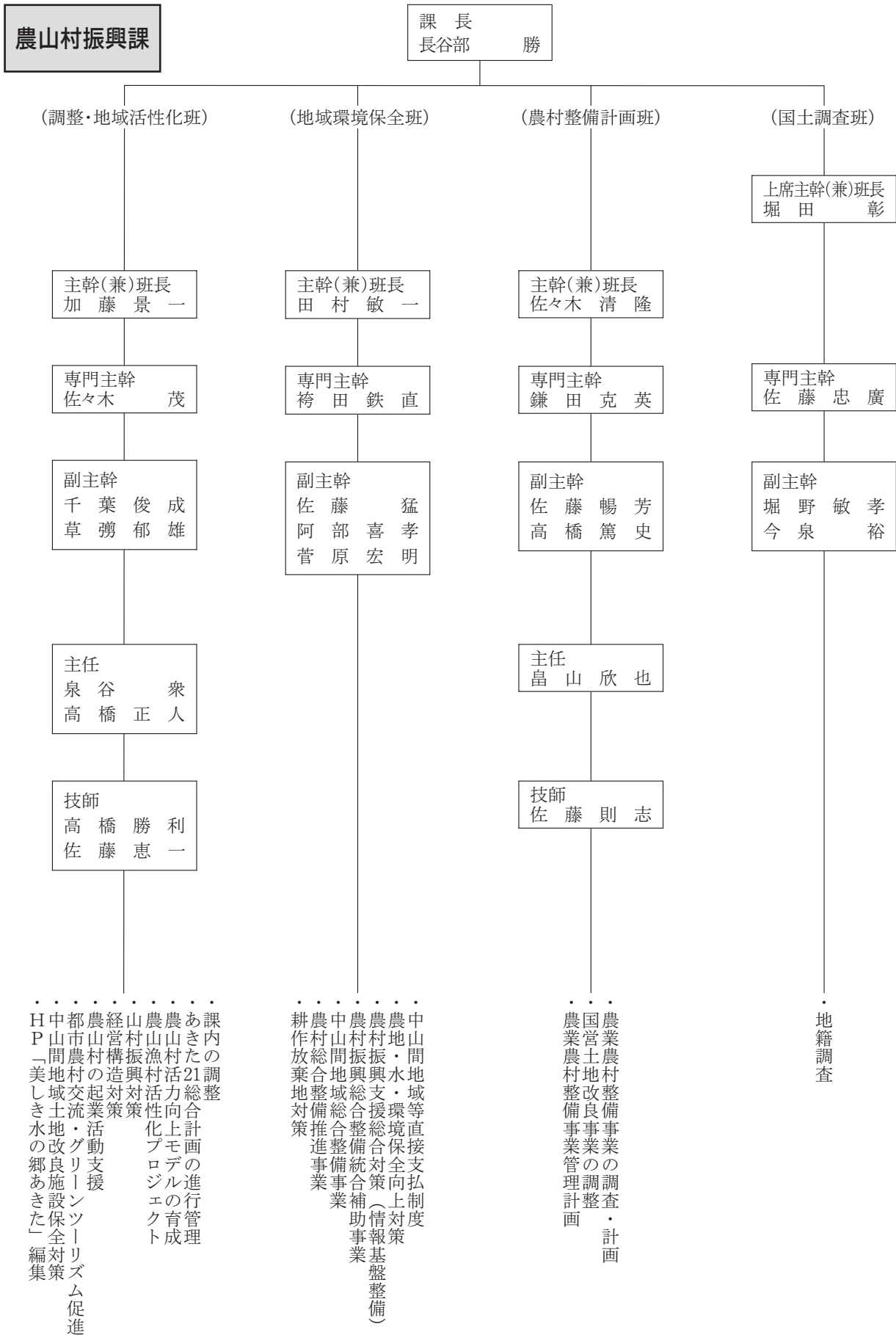
また、これらの施設の維持管理を担っております土地改良区は、組合員の高齢化、米価の下落、農村の混住化などにより組織、財政基盤の脆弱化が進行する一方、農業の構造改革、農村資源の管理など地域農業を支える中核的な組織としての役割がますます重要となってきております。県としては、土地改良区がこれら重要な役割を十分発揮できるよう、継続的に協力するとともに、土地改良区の運営基盤の強化のため、土地改良区の統合整備を積極的に推進してまいります。

終わりに、会員の皆様の御要望に応えられるよう、各般の施策を着実に推進してまいりたいと考えておりますので、一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年度 県の土地改良関係課事務分掌

(平成20年4月1日現在)





平成20年度本会人事異動

平成20年4月1日付発令

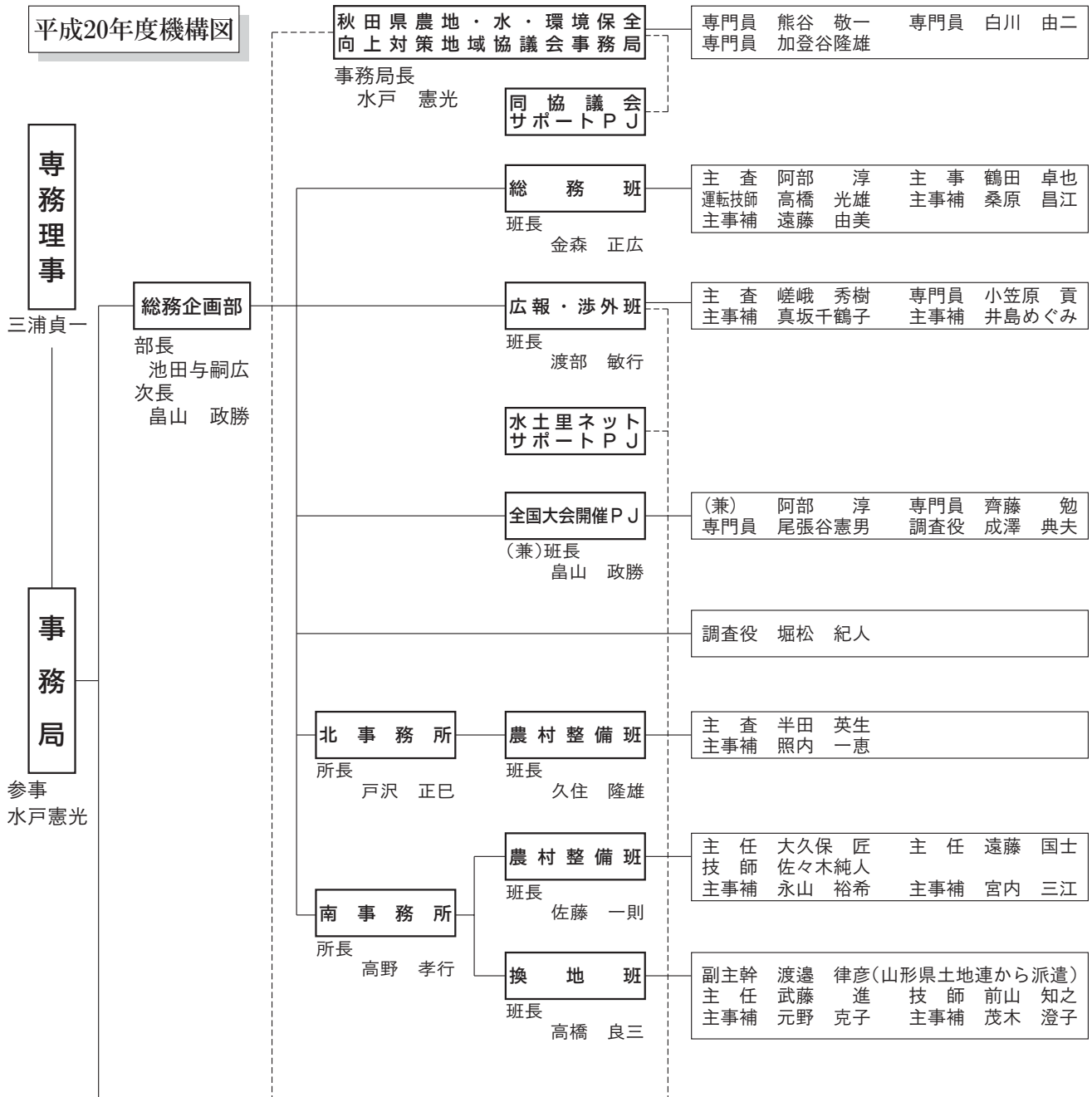
本会は、平成20年度の人事異動を4月1日付で発令した。事務局は4部12班6PJ（プロジェクト）体制とし、北事務所換地班は、農地整備部換地班に統合となった。また、池田総務企画部次長が部長に昇任し、高度な専門知識・技術・機能を有し専門能力を発揮できる部長級職として新たに技術長を設け、環境整備部の三浦次長と農地整備部の黒崎次長が技術長に昇任。今年度から実施される技術提案等企画提案型（プロポーザル）契約などにも機能的に対応

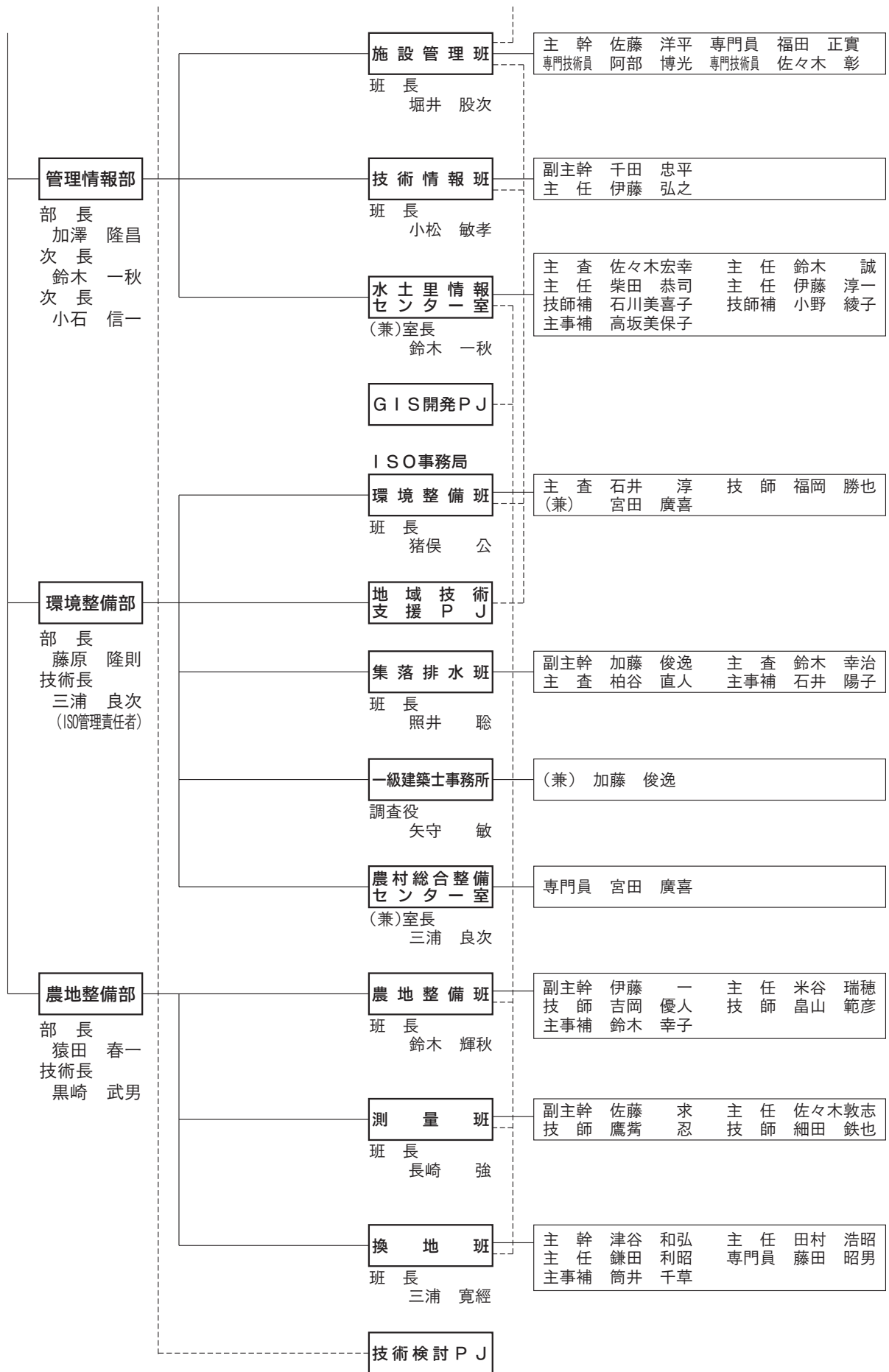
できるよう組織体制の整備を図った。

また、経験豊かな人材を確保し、より充実した会員サービスを目指すことや全国土地改良大会秋田大会に向けた準備等から退職者の再雇用制度を活用し、新たに3名が専門員として採用された。

なお、職員3名（尾張谷憲男氏、藤田昭男氏、菅原悦晴氏）、嘱託職員2名が退職となった。

平成20年度の本会機構図及び職員配置は、次のとおりです。





平成19年度 雄物・米代川地域 広域基盤確立推進協議会

平成20年度事業計画及び収支予算案を承認

3月5日(水)秋田市「イヤタカ」において、平成19年度雄物・米代川地域広域基盤確立推進協議会が開催され、協議会委員及び幹事、事務局など関係者40名が出席した。

協議会は、高橋規男会長(秋田県仙北平野土地改良区理事長)の挨拶に続き、東北農政局整備部の小澤與宏部長が「農政改革の推進に向けた国営事業の展開について」と題する基調講演を行った。講演では、東北地方の国営事業の取り組みを紹介しながら、現在進められている国の農政改革の展開方向を説明し、今後の土地改良区の役割や農村振興における期待などの内容であった。

その後、高橋会長を議長に議事が進められ、平成18年度事業経過報告及び収支決算報告、平成18年度会計監査報告、平成19年度事業経過報

告、平成20年度事業計画及び収支予算案などの提出議案はすべて承認された。また、副会長の選任も行われ、副会長には藤井弘道氏(秋田県南旭川水系土地改良区理事長)が選任された。

国営事業及び県営事業の状況報告では、県内国営3事業所及び県農林水産部農地整備課の担当者から、各国営事業の概要及び事業実施状況などが報告された。なお、東北農政局男鹿東部農地防災事業所は、事業完了に伴い3月31日をもって閉所となった。



連 合 会 日 誌

2月27日	由利支部土地改良区理事長・市役所担当課長研修会	由利本荘市
2月28日	水土里情報活用促進事業担当部所長等会議(～29日)	東京都
2月29日	品質確保支援研修会	秋田市
3月11日	全国水土里ネット理事会	東京都
3月13日	平成19年度第1回東北・北海道土地連技術主任者会議	仙台市
3月13日	第4回山本支部全体会	能代市
3月14日	及水地区県営経営体育成基盤整備事業並びに沢山地区県営ため池等整備事業竣工記念式典	大仙市
3月17日	平成19年度東北農業農村整備推進協議会	仙台市
3月18日	農地・水・環境保全向上対策担当者会議(～19日)	仙台市
3月25日	平成19年度第2回秋田県「水と緑」の協議会	秋田市
3月27日	疏水ネットワーク平成19年度第2回通常総会	東京都
3月29日	農地・水・環境保全向上対策全国シンポジウム	東京都
4月17日	全国土地改良大会運営委員会	秋田市
4月17日	第1回監事会・理事会	秋田市
4月22日	秋田県土地改良事業団体連合会第4回大館・北秋田支部全体会	大館市
4月22日	平成20年度鹿角支部全体会	鹿角市
4月23日	第37回土地連秋田支部通常総会	秋田市
4月24日	平成20年度秋田県土地改良事業団体連合会仙北支部全体会及び仙北土地改良推進協会総会	大仙市
4月25日	平成20年度秋田県土地改良事業団体連合会由利支部全体会	由利本荘市

今後の行事予定

4月30日	秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会第1回担当者会議	秋田市
5月7日	平成20年度秋田県土地改良事業団体連合会雄勝支部全体会	湯沢市
5月22日	平成20年度東北・北海道土地改良連換地等促進事業担当者会議(～23日)	青森市
6月4日	疏水ネットワーク平成20年度第1回通常総会	札幌市
6月4日	疏水サミットin北海道2008(～5日)	北海道
6月15日	第59回全国植樹祭	北秋田市
6月15日	第6回水土里のみちウォーキングin仁井田walk	秋田市

水土里ネット

合併予備契約調印式

■ 22年4月の設立へ

ー 能代市二ツ井町の2水土里ネットー

3月29日、能代市二ツ井町(二ツ井総合観光センター)で、山本郡市川堰土地改良区(安井操理事長)、山本郡岩堰土地改良区(菊池博悦理事長)による合併予備契約調印式が行われ、土地改良区の役職員をはじめ藤田定能代市二ツ井地域局長や県関係者など約40人が出席した。

調印式では、はじめに合併推進協議会長の安井理事長が「厳しい農業情勢によって財政基盤の脆弱化が懸念されてきたが、今回白神の恵まれた藤琴川を水源とし、水路もほぼ並行して流れている両土地改良区が合併することにより、体質強化及び運営の合理化が図られ組合員から信頼される土地改良区を実現していただきたい」とあいさつ。続いて、両土地改良区の理事長と、立会人の藤田二ツ井地域局長が合併予備契約書に調印し握手を交わした。

合併後の新土地改良区は、受益面積424ha、組合員666人となる予定で、平成22年4月1日の発足を目指している。

■ 来春の合併に向け予備調印

ー 湯沢市の2水土里ネットー

4月4日、湯沢市(湯沢グランドホテル)で雄勝町土地改良区(篠田學而理事長)、湯沢市中央土地改良区(由利傳理事長)の合併予備契約調印式が行われ、土地改良区の役職員をはじめ、県や市の関係者など約50人が出席した。

調印式では、はじめに統合整備推進協議会長の鈴木俊夫湯沢市長が「厳しい農業情勢が続くなか、組合員の利益を第一に考えた堅実な合併を進め、組合員から評価される組織運営を実現していただきたい」とあいさつ。続いて、篠田、由利両理事長と立会人の鈴木市長が合併予備契約書に調印し握手を交わした。

両土地改良区は、9月末までにそれぞれの総代会で契約内容を承認し、合併認可に向けて準備を進める。

合併後の新土地改良区の名称は「湯沢市中央土地改良区」で、受益面積は1,657ha、組合員は2,156人となる予定で、平成21年3月31日の発足を目指している。



会員だより

「秋田市農林部」移転のお知らせ

○秋田市農林部は、市役所分館から、八橋別館(国体局事務局跡)に移転しましたのでお知らせいたします。また、4月1日からは、農林部組織改編により、農林総務課、農業農村振興課、農地森林整備課の3課体制となりました。

【八橋別館住所】

〒010-0973 秋田市八橋本町六丁目12-1

【新課所電話番号】

農林総務課	・電話番号(直通) 866-2115 ・FAX番号 864-4408
農業農村振興課 (旧地域農業推進室)	・電話番号(直通) 866-2116 ・FAX番号 864-2548
農地森林整備課 (旧農村振興課・旧森林整備課)	・電話番号(直通) 866-2117 ・FAX番号 883-4041



第6回 「水土里のみちウォーキング」in 仁井田 walk

■ **開催団体** 〔主催〕水土里ネット仁井田堰、秋田県ウォーキング協会
 〔共催〕秋田県、秋田市、秋田市教育委員会、水土里ネット秋田、水土里ネット秋田支部、秋田花まるっグリーンツーリズム推進協議会

〔主管〕水土里のみちウォーキングin仁井田ウォーク実行委員会

〔協賛〕JA新あきた、秋田中央農業共済組合

〔後援〕秋田県中央地区老人福祉総合エリア



■ **開催日時** 6月15日(日) 出発式：8時30分(8時～受付開始)

■ **開催場所** 秋田市四ツ小屋周辺(集合場所：秋田市御所野 老人福祉総合エリア内駐車場)

■ **コース**

ロング・コース 14km 「所要時間 約3時間30分」

エリア駐車場(スタート) → 四ツ小屋幹線水路 → せせらぎ水路広場 → ヤブレ沼 → 秋雄大橋 → 本田橋 → 豊成橋 → 仁井田堰頭首工 → 保量神社(仁井田堰幹線用水路) → 白山神社 → エリア駐車場(ゴール)

ショート・コース 6km 「所要時間 約2時間」

エリア駐車場(スタート) → 四ツ小屋幹線水路 → せせらぎ水路広場 → ヤブレ沼 → 白山神社 → エリア駐車場(ゴール)

■ **参加費** 一般200円(傷害保険料等)、中学生以下は無料(幼児・児童は保護者同伴のこと)

■ **記念品** 完歩者には「お米」、「記念品」、「水土里のみち完歩認定証」をプレゼント

■ **申込〆切** 6月2日(月)まで FAXまたは郵便で受付

【申込・問い合わせ先】

水土里のみちウォーキングin仁井田ウォーク実行委員会(水土里ネット仁井田堰)

〒010-1421 秋田市仁井田本町4-5-20 TEL.018-839-2504 FAX.018-839-2292

「ながれ写真集」の発行について

今年も秋田県土地改良事業団体職員会の編集・発行による「ながれ写真集」を予定しております。関係の皆様には、資料の調査・報告等にご協力いただきますようお願いいたします。

【問い合わせ先】 秋田県土地改良事業団体職員会(担当：総務企画部総務班 阿部)

編集後記

◆今年例年になく桜前線が早足で北上し、県内各地でも桜が見ごろを迎えています。これから日を追うごとに春本番の装いとなり心もはずんできますが、ゴールデンウィークまでには葉桜になりそうな気配です。桜シーズンの到来が早くなることは嬉しいことですが、これも地球温暖化がもたらす影響でしょうか。4月15日からは「みどりの月間」(5月15日まで)が始まっています。緑豊かな自然や森林は、豊かな心をはぐくみ、食べ物や燃料、水、酸素など多くの恵みを与えてくれます。普段忙しい方は、家族サービスも兼ねて、緑豊かな自然や森林に親しみ、疲れた体をリフレッシュしてみたいと思います。

◆この3月末をもって5名の職員の方々が退職されました。長きに渡り本会業務にご尽力いただき感謝申し上げます。そして、今後益々のご活躍を期待しております。さて、今年第59回全国植樹祭(6月15日)や第31回全国土地改良大会(10月14日)が秋田県で開催されるほか、本会も設立50周年を迎え節目の年となります。本会では現在、全国土地改良大会の開催、土地連50周年記念誌の発行に向け準備を進めております。関係の皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。また、今年度は「秋田の土地改良」の内容充実を一つのテーマとして考えています。タイムリーで役立つ情報の提供を目指して行きたいと思っております。皆さんからのご意見・ご感想をお持ちしております。(広報・渉外班◇嵯峨記)